

表 3.パンジーの品種と生育

品 種	播種日 月/日	条間×株間 (cm)	ポット移植日 月/日	備考
LR アリル6 品種 LR オトノ6 品種 LR テラノ6 品種 LR プロント6 品種	9/13～15	25×25 (予定)	10/6～26	播種は育苗パ ットに1品種 約1000粒を バラまきした

※これらパンジーの種子は、本園が平成16年度から実施している「おすすめのガーデニング品種展」の提供種子として(株)サカタのタネより種子提供を受けたものである。

平成16年カスケードコンテナ及び 周辺花壇装飾について

磯部 実・梶川 修・高東 朗

はじめに

カスケード周辺には、現在大小68個の大型コンテナ(9月からは台風による破損のため64個)と30箇所の小花壇及び13個の立体花壇(フラワーボール)、20～50個の角型・丸型プランター、ハンギングバスケット等で季節の草花等を常時展示装飾している。

カスケード全体を一年中花で覆われるように装飾し、ガーデニングの話題提供となるように新品种の導入植栽をはかり、適宜植物名ラベル(白色7×4cmT型ラベルにブラザーPタッチテープを貼付)を付け、ラベンダーなどハーブ類は入園者が触って楽しめるよう「触ってみてください。香りがします」の表示をつけた。



写真1.貯水型木製プランター「みずいらず」

2月には(財)都市緑化技術開発機構より貯水型木製プランター「みずいらず」3基の寄贈を受け、ゲート前の屋根下に設置し春はパンジー、夏はデュランタやベゴニア、冬はハボタンなどを植えた(写真1)。

植え付けた植物

コンテナや周辺花壇に植え付けた植物は表のとおりである。

経費節減のため花木や宿根草は昨年植栽し、開花後掘上げてバックヤードで栽培したものや、他の展示に利用したものを活用し、植栽した。また「おすすめガーデニング品種展」でエッチ・アイ・ジュイよりアゲラタム、アングロニア、ニューギニア・インパチェンス、ヘリオトロープ、ペンタスの開花株苗の提供を受け、小花壇に植栽し、宣伝表示をした。

立体花壇は11月下旬～4月下旬までは中輪パンジー、5月上旬～12月中旬まではベゴニア・センパフローレンスで装飾した。

階段には春から秋までタキイ種苗(株)よりペチュニア、(株)ミヨシよりピンカの開花株苗の提供を受け、それぞれ約20個のプランターで装飾した。

維持管理

維持管理状況は昨年とほぼ同様である。

病害虫は大きな被害は無かったが、夏にサルビアにバッタの食害があったのでオルトラン粒剤を施用し、ハイビスカスにアブラムシが発生したのでオルトラン粒剤などで防除した。

レンガブロックや階段敷石の隙間に雑草の繁茂がひどかったので手抜き除草のほか、草刈機による機械刈り(一部委託)と除草剤(ラウンドアッ

表. 平成16年にカスケード及び周辺花壇に植栽した主な植物

	12月	1月	2月
冬	エパクリス・ロンギフローラ エレモフィラ・ニベア カモミール ギョリュウバイ クリスマスローズ サントリナ シロタエギク ジャノメエリカ ネリネ・ウンデュラタ ハボタン バコパ ビオラ フユシラズ (チューリップ)	シロタエギク パンジー	アネモネ クリサンセマム ‘ノースポール’ サザンクロス シロタエギク チューリップ チョコレートコスモス トキワナズナ パンジー プリムラ・マラコイデス ヘリクリサム ‘カンザシヒメ’
春	3月 アルメリア イトズイセン エリカ交配種 オキナグサ オーブリエチア ガザニア キレハラベンダー スズランエリカ チューリップ パンジー ブルーデージー マーガレット *マーガレットコスモス ラッパズイセン	4月 アマリリス アルメリア イングリッシュ・ラベンダー ガザニア コツラ キンギョソウ キンレンカ クリサンセマム ‘マニー’ コンボスボルス・クネオルム ダッチアイリス ツンベルギア・アラタ チュウキンレン デルフィニウム バーベナ ベゴニア・センパフローレンス ペチュニア フレンチ・ラベンダー マーガレット	5月 アゲラタム インパチェンス エンゼルストランペット クリサンセマム・オスマリエンセ ゼラニウム ディモルホオセカ ニューギニア・インパチェンス ハイビスカス パキスタキス・ルテア フロックス ベゴニア・センパフローレンス ランタナ ルリマツリ ヤエサンユウカ
夏	6月 カシワバアジサイ ガーデンダリア コンボスブルス・クネオルム コンロンカ ダリア・ピンナタ ハイドランジア ハナショウブ ハイビスカス フトボナガボソウ フロックス ‘インテンシア’ ブルーハイビスカス ヘリオトロープ ルリマツリ	7月 アンゲロニア カンナ ‘ビューイエロー’ カンナ ‘ビューブラック’ クルクマ ケイトウ コウシュンカズラ シレネ シュッコンロベリア ニューギニアインパチェンス ネコノヒゲ ヒポエステス フィリエンジェルストランペット フィリネコノヒゲ プセウドランセマム フトボナガボソウ ペチュニア ペンタス ハナチョウジ	8月 イレシネ コダチダリア (未開花株) サギソウ シュウメイギク タイリンマツバギク ツルソバ デュランタ ネコノヒゲ ヒモゲイトウ ブロワリア ポーチュラカ ユリ ‘カサブランカ’ ヨルガオ
秋	9月 アキランタス クジャクアスター スカビオサ ナデシコ交配種 ハナカタバミ ハマギク ヒメツルソバ ヘリクリサム・ペチオラタ フジバカマの仲間 ペンタス ルリマツリモドキ ヤナギバヒマワリ	10月 アキランタス アルメリア (未開花株) ウインターコスモス オキザリス・ヒルタ コスモス ‘イエローガーデン’ コダチダリア (未開花株) サザンクロス ‘ホワイトウインド’ シュッコンマリーゴールド ナデシコ ‘トコナツ’ フィリカリガネソウ フジバカマの仲間 オカタンサス・カエルレウス(ブルーキャッツアイ) ムラサキルーシャン	11月 アガパンサス (未開花株) アワユキエリカ エリカ ‘ウインターファイヤー’ エリカ ‘ホワイトウインド’ サザンクロス ‘ホワイトウインド’ *サルビア ‘イエローマジスティ’ *サルビア・ミクロフィラ *サルビア・レウカンサ ハボタン パンジー フユシラズ ヘラボラス・フェティダ ムラサキルーシャン モクビヤッコウ *ユリオプスデージー

*は恒常的に植栽したもの
()は球根の植え付け

プ) 散布を併用した。

台風被害や暖冬の影響

9月7日の台風18号、9月29日の台風22号、10月20日の台風23号でカスケードの植物やコンテナが大きな被害を受けた。いずれも植物の蕾や新芽折れ、枝折れ、倒伏やコンテナの破損による根の切断などの被害があり、その後の開花や生育の遅れなど大きな影響があった。

また、11月から12月にかけて暖冬の影響で、降霜がほとんど見られず、例年12月中旬には展示できなかったコダチダリアやベゴニア・センパフローレンス、インパチェエンスなどが12月下旬まで展示でき、およそ2～3週間は植え替え作業や防寒作業を遅らせた。

展示など

昨年に引き続き1月から定期的(ほぼ月の第2、4木曜日)に植物友の会管理ボランティアの協力を得て、季節の草花を組み合わせたハンギングバスケットや寄せ植えを作成し、春、夏、秋、冬に常時20～30個を展示した。

カスケードの流れに、6月にハナショウブの鉢植えとプランター植えを約20個展示し、8月にはサギソウ、ミソハギおよびアシなどの水生植物を使った寄せ植えを約20個展示した。10月21日から11月4日までコンテナ及びガーデニングコンテスト作品展及びハンギングバスケット展をカスケード中段付近で行い、入園者に大変好評であった(写真2)。

春から冬まで計6日夜間開園を開催し、カスケードの両側の植え込みや石壁面にイルミネーショ



写真2. ハンギングバスケット展

ンを設置し、階段にキャンドル、ランタンを置き、光の演出を行った。植物のライトアップは、5月8日、5月9日はハンギングバスケットやシャクナゲ、9月11日、9月12日はヨルガオ、エンジェルストランペット、ハイビスカス、ハンギングバスケットなど、12月11日、12月18日はコダチダリア、アキグミ、エレモフィラ、ハンギングバスケットなどを大型懐中電灯やランタンで行った。

(写真3、4)

今後の課題

ガーデニングの情報提供の場として、積極的な新しい植物の導入とその栽培方法を解説した展示。大型植物の植栽による立体的な展示。カスケードの流れと岩組みを利用した植栽展示。景観を配慮した休憩用のベンチ等の増設など。

参考文献

磯部実、梶川修. 2003. 平成15年カスケードコンテナ及び周辺植栽花壇について. 広島市植物公園栽培記録第25号: 19-20.



写真3. 秋の夜間開園リハーサルの様子(9月9日)



写真4. コダチダリアのライトアップ(12月11日、花の進化園にて)